

1 分間に17人(内12人が子ども) / 1 日に2万5,000人が / 1 年間では約1,000万人が飢えのために生命を失っています

ハンガーゼロ・ニュース

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News 12

No.425 | 2025 |

2025年 クリスマス募金



Hunger Zero News 今月号の内容

FHインドネシア代表が現地報告	P.2
2024クリスマス募金の使途報告	P.3
2025クリスマス募金スタート クリスマス for ピース	P.4-5
ボリビア駐在・小西スタッフ連載	P.6
チャイルドサポーター新支援地	P.7

南スーダンから逃れてきた女性 / ウガンダの難民キャンプで

報告するエフェンディ氏（10月20日／大阪事務所にて）



住民が主体的に取り組む「総合農業プロジェクト」

ハンガーゼロは2019年から海外パートナーであるFHインドネシアの活動を応援しています。10月に世界食料デーの現地報告者として来日した同代表のエフェンディ・アリトナン氏に活動報告と今後の計画について伺いました。

支援地域に選ばれたメンタワイ諸島は、スマトラ島西海岸沖に位置し、世界中のサーファーが訪れる美しい自然に恵まれた場所です。しかし、島では子どもの3人に1人が発育に問題を抱えており、津波などの自然災害や伝統的農業による収入不足が原因で、食料の購入が困難な状況にあります。食料自給が難しく、スマトラ島からの供給に依存しているため、栄養不足が深刻な課題となっています。

2019年から始まった「栄養バスケットプロジェクト」では、妊婦や授乳期の女性、2歳未満の子どもを持つ保護者に牛乳、卵、緑黄色野菜などを詰め合わせた栄養バスケットを週1回配布しました。保護者85人と保健ボランティア96人を対象に健康研修と料理教室を実施し、10品目の食品をバランスよく摂取することを推奨。その結果、10品目を摂取できている人の割合は4.7%から18.7%に増加し、出生時の体重も改善傾向にあります。

農業人材育成を推進するアグリセンターを改修

2024年からは「栄養改善と収入向上のための統合農業プロジェクト」が始まり、5つの農民グループに対して種の採取、苗木作り、有機肥料の活用、害虫管理などの研修が行われました。養鶏をきっかけに家庭菜園を始める農家が増え、地域では多様な野菜が栽培されるようになりました。さらに、医療従事者やボランティアによる栄養カウンセリングを行う場として「栄養ポスト」が設置されました。このポストは、住民が気軽に健康相談できる場所として機能し、栄養に関する知識の普及と健康意識の向上に貢献しています。住民が自らの健康を考えるきっかけとなり、地域全体の栄養状態の改善にもつながっています。

農業技術の提供により、農民の能力強化が進み、気候



アグリセンターの未来図

変動に対応した持続可能な農業への意識も高まっています。農業の後継者育成にも力が入られ、青少年が環境に配慮した農業を学べる施設「アグリセンター」が改修されました。この施設では高校・中学校4校から87人の学生が研修を受け、次世代の農業人材育成が進められています。今後は「生産と栽培」「教育と研修」「ビジネスと市場」の3本柱を担う拠点として、さらなる改修が予定されています。また、地域では貯蓄グループの形成が進み、146人が6つのグループに分かれて事業開発や組合について学びました。これらのグループはFHインドネシアの関与がなくても活動を継続しており、農業関連ビジネスへの関心も高まっています。

農業をビジネスチャンスに

今後は、若者の「農民は貧しく教育を受けていない」という誤ったイメージを払拭するため、大学卒業後に農業で成功した人の話を聞く機会を設け、農業をビジネスチャンスとして捉える起業精神を育てていきます。

さらに、島の沿岸部にあるリゾートホテルに地域産の有機野菜や果物を販売することで、住民の貧困脱却を目指します。その実現に向けて、スマトラ島の2つの大学との提携を進め、調査研究やプロジェクトの質向上を図ります。

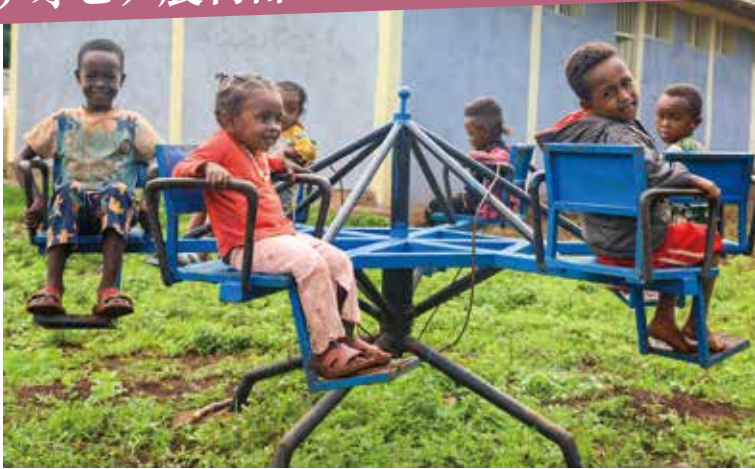
ハンガーゼロのこれまでのご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後の計画を着実に進めるため、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。



2024クリスマス募金使途報告

ご協力ありがとうございました

エチオピア農村部の子どもたちの発達を支援



生後9年間の子どもの身体や脳の発達がその子の人生を形作ると言われるほど、幼少期の子どもを取り巻く環境は重要ですが、エチオピアの農村部では子どもの発達を助ける設備や教材や社会性を育む遊び場などが不足していて、子どもの総合的な発達を妨げる大きな要因になっています。

ハンガーゼロは、現地パートナーのFHエチオピアと協力して、紛争とそれに続く教育の中断で深刻な影響を受けたオロミア州ディガ地区のジルマコミュニティで、子ども発達センターの建設・整備の支援を行いました。幼児教育施設がないこと、校舎が崩壊したために子どもたちが木陰で学習していること、近隣の学校に通うためには子どもが長距離を歩かなければならないことなど、緊急に対応する必要があることや建設地の安全も考慮して、このコミュニティが選ばれました。

地元自治体からも理解と協力

子どもたちに安全で発達段階にふわしい学習環境を創り出すために、地域の様々な関係者が協力をしました。管轄の地方自治体は、教室と遊び場を含む400平方メートルの建設用地を提供しました。地域の長老や学校関係者、保護者、地方行政評議会は、掘削・整地作業などの取り組



2024クリスマス募金額：5,110,703円

みを通じて事業への理解と支持を示し持続可能性を確保するなど、地域住民の参加と自発的な貢献を促す上で重要な役割を果たしました。

建設期間中、150名以上の地域住民が自発的に掘削・整地作業や支援業務に参加し、子ども発達センター建設における地域の強い主導性とコミットメントを示しました。また、臨時労働者として45名（女性12名、男性33名）、家具製作と内装工事のために熟練した大工3名が雇用され、それぞれが家族を養うための収入を得ました。



子ども発達センターができる前の状況

今回の支援で、最大100人の児童を収容できる3つの教室と子どもに優しい遊び場が建設され、滑り台、メリーゴーランド、シーソーなどの屋外遊具が設置されました。この子ども発達センターの影響は、広範囲に及びます。子どもたちは脳の発達を促す体系的な学びの機会を得て、読み書き・計算ならびに問題解決能力を身に付けるとともに、仲間や大人とのかかわり方、分かち合い方、コミュニケーションの取り方などを学びます。

一方保護者は、子育ての方法や子どもの発達に関する知識を得て親子の絆を深めることができます。また、発育の遅れや障害を早期に発見して支援につなげるなど、子ども、家族、地域社会全体に多くの恩恵をもたらすことが期待されています。

この活動は、昨年（2024年）のクリスマス募金ならびにハンガーゼロサポーター支援によって支えられています。皆様のご支援を感謝いたします。

※次頁に「2025クリスマス募金」を掲載しています。

高知ベンテコステ教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ



大川内科

循環器内科・内科・老年内科

院長 大川 真理



クリスマスに 平和を求め、 支援を届けよう！

「2025年クリスマス募金」は、ハンガーゼロの活動地で飢餓や貧困と戦い平和をつくり出す歩みが続いている人々を心に留め、祈りと支援を届けます。ぜひご協力ください。

以下は、ハンガーゼロが今年度支援を予定しているコミュニティの中で、戦争や内戦、反政府ゲリラの活動や部族間の闘争などの影響を受けて苦しんでいる人々がいる国や地域です。

南スーダンの難民キャンプ（2024年）



戦争や紛争がもたらす飢餓

2025年は第二次世界大戦終結から80年、日本はこれまで平和のうちに歩んできたことができました。しかし世界に目を向けると、戦争や内戦、反政府ゲリラの活動や部族間の闘争など今も争いと隣り合わせ、あるいは争いのただ中で生きている人々があります。戦争や内戦によるインフラや政治体制の破壊、環境や人々の心身へのダメージ、そして食料不足による栄養不良は、その後何十年にもわたって人々の生活に影響を与え続ける可能性があります。

食することは生きることと直結する問題です。戦争や紛争などの争いが飢餓を生み、飢餓が争いを生むという悪循環に陥らないためにも、根本的な飢餓対策の取り組みが平和を築く一歩として欠かせません。



アフリカ：南スーダン、ケニア、エチオピア、リベリア、
ニジェール、コンゴ民主共和国、シエラレオネ
アジア：フィリピン、インドネシア
中 米：グアテマラ
欧 州：ウクライナ
中 東：ガザ

【南スーダン】 学校給食や避難民キャンプの支援継続

長年に亘る内戦の後、2011年にスーダンから独立したものの国内の政治的対立による武力衝突が続き、国内避難民も多く治安が安定しません。2023年4月に勃発したスーダン危機のため難民が流入し、人々の生活を更に圧迫しています。ハンガーゼロは現地パートナーであるライ

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は
各地に飛んでいきました！



食料が不足している、
国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、
海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト

検索

フ・イン・アバンドンス (LIA) と協力し、ルンベック州マブイ村の小学校で全校生徒への学校給食支援を行うほか、カナダのパートナーであるユニバーサル・エイド・ソサエティ (UAS) と協力し、難民キャンプや国内避難民キャンプに医薬品を届けています。(本紙2025年3月号に記事)

【ケニア】 養蜂で女性や若者への経済的機会を創出

植民地政策の名残りによるとも言われていますが、ケニアでは部族間の対立が激しく、特に選挙の時期になると他の部族を襲撃する事件まで起きています。遊牧を営む人たちが暮らすケニア北部のカラ村では、気候変動や経済的疎外などの課題に加え、家畜を巡る部族間の紛争が繰り返されています。また、干ばつや洪水、食料不安、更には生計手段が限定的であることが状況を悪化させています。

2023年のケニア国家統計局 (KNBS) の調査では、この地域の人口の75%以上が貧困ライン以下で生活していること、また、機械・農地・家畜などの収益を生む資産へのアクセス、教育や正規雇用へのアクセスが限られていることから、女性と若年層が特に深刻な影響を受けていることが示されています。

ハンガーゼロは現地パートナーであるFHケニアと協力して、住民が始めている養蜂の取り組みを支援することで、特に女性や若者にとっての経済的機会を創出し、地域コミュニティが持続可能な生計と環境保全を両立させて将来の世代を支える力を得ることを期待しています。

【フィリピン】 住民主体の地域変革で脅威に対抗

ハンガーゼロの現地パートナーであるハンズ・オブ・フィリピン (HOLPFI) が活動しているミンドロ島でも「新人民軍 (NPA)」と呼ばれる反政府組織が活動しています。支援コミュニティの住民も活動に加わるようにとしばしば勧誘されており、断ると収穫の妨害などの嫌がらせをされます。貧困など地域の不満を聞き取り、信頼関係を築いて活動に取り込んでいくケースもあるため、村のリーダーたちが住民主体の地域変革 (VOC) を進めていく中で、コミュニティ全体の結束を固めてNPAに対抗していけるようにサポートしています。(本紙2023年8月号に記事)

【ガザ地区】 海外パートナーを通じて食料配布を計画

2023年10月以降、2年間に及ぶ戦闘でガザ地区の約6割の建物が破壊され、200万人の人口の9割が避難を余儀なくされました。国連の世界食糧計画はガザ地区では食料の不足が深刻化し、人口の半数近くが「飢きん」の危機に瀕していると伝えています。「飢きん」は食料不足の程度を表す国際的な指標のうち、最も深刻な状況を示す言葉です。人口の4分の1に相当する50万人以上が飢餓状態にあり



写真はイメージ
ガザではありません

ます。現在3人に1人以上が何日も食事を摂れない日々を送っているとのことで、ただちに食料の配布が必要です。

●サマリタンズ・パースの食料配布プログラム

ハンガーゼロは、紛争当事者のどちらにも寄らず、ただ飢餓に苦しむガザ地区の人々を何とか助けることはできないか祈り模索してきました。

そうした中、米国に拠点を置くキリスト教系緊急援助支援団体、サマリタンズ・パース (代表: フランクリン・グラハム) が、2025年5月以降1億8,500万食をガザで配布してきたことを知りました。そこでこの支援に日本から、まずは食料の購入と配布の資金協力を行っていく計画です。ぜひご協力をお願いします。そしてガザ地区における和平協定が今後双方により守られて支援の可能性がさらに広がるようであれば、改めて皆さまに「ガザ支援」の呼び掛けをさせていただきます。



ガーゼの由来

日本ではドイツ語の「ガーゼ」がそのままだに使われるようになりました。私たちが包み癒してくれる「ガザ」が今、世界の争いの大きな傷、痛みとなっています。



2025クリスマス募金

募金目標
800万円

- ① 郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構「クリスマス募金」と明記
- ② WEBサイト「ハンガーゼロ」で検索又はスマホでQRコード入り、クレジットカードを利用

※WEBサイトからの募金受付は
12月からとなります



ウクライナ避難民への支援につきましては、受付中の「ウクライナ緊急支援」として募金をお願いします。



ベルタちゃんのお話 ①



私が彼女と出会ったのは6年前、彼女が10歳の時でした。ポトシ州・トロトロ郡の中心部から徒歩で約一日かかるサイチャニ・チコ村に住む彼女は、6人兄妹の4番目です。家族は農業を営んでいますが、その地域で最も貧しい家庭の一つでした。そのため、彼女は少しでも家計の助けになるようにと、ある日妹と2人で食料になる野鳥を狩りに行きました。木の低い場所に留まっている野鳥を見つけ二人で足音を立てないように注意深く近づいて行って、前を歩いていた妹がまさに野鳥を仕留めようと木の棒を力一杯後ろに振り上げた瞬間、丁度後ろにいたベルタちゃんの右目を直撃したのです。

失明、死に至る危険性

悲鳴とともに大量の出血が！しかしそこは救急車も呼べない僻地で、村の人も車を所持していませんでした。しかも市の中心部にある診療所にたどり着けたとしても、そこでの治療が不可能なほどの重症でした。このまま



変わるものと
変わらないもの



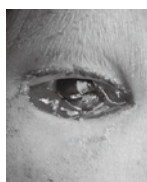
ボリビア多民族国
駐在 小西小百合

では失明どころか脳が菌に侵されて死に至る危険もあります。とにかく応急処置をして、父親が急いで彼女をバイクでトロトロ市内へ連れて行きました。そしてその地域担当のFH(注)ボリビアスタッフに助けを求め、そこから公共バスで5～6時間かかるコチャバンバの町へ搬送しました。

しかし公立の病院には緊急手術が必要なベルタちゃんのような患者を受け入れる体制がありませんでした。私立のクリニックはありますが治療費が高額で彼らには支払うことができません。ベルタちゃんはFH米国のサポートチャイルドだったため、そのスタッフはFHコチャバンバ事務所の当時の責任者に電話で“彼女の治療費の支援をしてほしい”と助けを求めたのですが、かないませんでした。というのも当時のFH事務所にも彼女を支援してあげられる資金がなく、事務所責任者は苦渋の思いでそのことを告げたのです。

その結果、ベルタちゃんは激痛に耐えながら、父親と公共バスで自分の村へ帰らざるを得なかったのです。このままでは命の危険にさらされます。一刻の猶予もありません。その時、私の携帯にそのスタッフからの緊急要請の電話がかかってきたのです。

(次号へつづく)



損傷した右目⑥、お父さんと

(注) FH=Food for the Hungry 国際飢餓対策機構

ウガンダ新支援地

子どもの健全な成長のために

マガダとイジランゴビ地区での支援活動が終了し、ハンガーゼロでは、同じナムトゥンバ地域にあるナカジンガ地区で支援を開始します。

ナカジンガ地区は、375世帯 1,729人が暮らしており、就学年齢の子どもの数は 329人です。住民の宗教はイスラム教徒が35%、キリスト教徒が65%です。住居の約 45%は泥と草で作られた伝統的な家屋です。

医療施設は地区内になく、最寄りの診療所まで 17km ほどかかります。また安全な水へのアクセス率は25%とナムトゥンバ地域内で最も低く、衛生環境も不十分です。このように子どもたちの生活環境は厳しい上、ナカジンガ



ナカジンガ地区の学校の様子

地区には老朽化した学校が2校しかなく、教育施設も整っていません。児童労働が多く見られ、収穫期には子どもが学校を休むことが多く、保護者の教育への関心も低いいため、学業不振や中退、10代の妊娠、HIV（エイズ）感染などが問題となっています。

住民の約90%は農業に従事し、落花生、コーヒー、綿花などの換金作物のほか、トウモロコシ、豆、キャッサバ、米、バナナなどの食料作物を栽培しています。しかし食料不足は深刻で、収穫期には子どもたちが農作業に駆り出されることが日常的に行われています。

子どもたちは、心身ともに十分な支えを受けられておらず、教育・医療・衛生の向上とともに、子どもたちの健やかな成長を支えるための支援が不可欠な状況です。

是非、ウガンダの子どもたちをご支援ください。



日本基督教団 高石教会からの報告

「おにぎりパーティ」で支援

高石教会では毎年秋に、子どもの教会（教会学校）の子どもたちと大人が一緒におにぎりを作ります。このおにぎりを販売して、売上金をハンガーゼロに寄付する活動を行っています。おにぎりの販売も子どもたちが中心となって行います。

『おにぎりパーティー』の名前で親しまれ、大人も子どもも一緒におにぎりをいただきながら食の大切さや飢餓について学び、自分たちにできることから始めようという思いで活動しています。国際児童画を借りして「国際こども絵画展」も実施しています。

コロナ禍で実施が危ぶまれた時もありましたが、会食をやめ販売だけにして17年間続けて来ました。今年は久しぶりに会食に戻り、ハンガーゼロ動画「世界食料デー2025」を鑑賞しながら語り合い、交流の時を持ちました。

小さなことですが、続けることが大切だと思っています。この小さな手の働きが誰かを救う力になる、子どもたちがそのことを忘れず、互いに敬い助け合う未来を築いてくれたらと願っています。



支援地域の
子どもを支援

チャイルドサポーター

月々4,000円

支援地域の特定の子どもとつながり、地域で行われる活動をご支援頂きます。サポートチャイルドと手紙による交流が可能です。

2つの支援の方法

Child Supporter



▶お申込み◀

支援地域の
環境を改善

フィールドサポーター

1,000円から

月々または自由なタイミングで支援できます。サポートチャイルドとの交流はありませんが、現地での活動の様子のレポートをお送りします。



